

# 令和元年度

## 第1回 関東森林管理局国有林材供給調整検討委員会

日 時 : 令和元年6月12日(水)  
13:00~15:00

場 所 : 関東森林管理局  
東京事務所 会議室

### 次 第

1. 開 会

2. 議 事

(1) 木材の需給動向について

① 木材の需給、価格等の動向

② 関東局における国有林材の供給状況

(2) 国有林材供給調整の必要性について(審議)

3. 閉 会

令和元年度 第1回 関東森林管理局国有林材供給調整検討委員会 出席者名簿

(五十音順・敬称略)

所 属 ・ 役 職 名	氏 名
株式会社フジイチ 代表取締役社長	石野 秀一
福島県森林組合連合会 常務理事	遠藤 誠寿
栃木県林業木材産業課 木材産業担当 課長補佐	川上 晴代
協和木材株式会社 代表取締役社長	佐川 廣興
東京合板工業組合 業務統括室長	佐々木 祐子
群馬県森林組合連合会 木材部長	鈴木 克志
有限会社平子商店 専務	平子 美穂子
栃木県森林組合連合会 木材流通課 課長	田中 幸夫
茨城県森林組合連合会 代表理事専務	楡井 真一
国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 研究コーディネーター(地域イノベーション推進担当)	堀 靖人

関東森林管理局

官 職	氏 名
関東森林管理局長	齋藤 伸郎
森林整備部長	佐藤 肇
資源活用課長	古澤 茂昌
企画官(木材需給対策)	渋谷 英夫
素材供給係長	齋藤 博
供給計画係長	金澤 威一郎

1. 開催日時・場所

令和元年6月12日(水) 13:00~15:00

関東森林管理局 東京事務所会議室

2. 検討結果

需給動向や各委員からの状況報告等を総合的に勘案した結果、現時点において国有林材の供給調整を実施する必要はない。

3. 概要(状況報告等)

(1) 需給動向について

- 静岡県では、素材の入出荷とも高水準を維持しており、スギ中目A材の需要が強く、適寸材の不足により保合となっている。B材は各地で出材増加にあり、価格下落や入荷制限が見られる。
- 栃木県では、材種によっては大型製材工場で手持ちがあるため、だぶつき気味の材種では価格下落し始めている。今後の入荷量について、梅雨時期及び下刈り時期に入ることから平年並になると予想される。
- 福島県では、素材生産が順調に進み市場に材が多く出回っており、製材品市況が軟化気味であるため、丸太価格にも下押し圧力がかかっている。スギ3m柱取り材の価格が下降傾向にあったが、6月に入り下げ止まり感が見られる。長期的には保合から弱含みと予想される。
- 茨城県では、原木の入荷は順調で材の選別が追いつかない状況であるが、6月以降は、素材生産者が国有林の請負作業に入るため、入荷量は落ち着くと予想される。
- 群馬県では、県内の工場が丸太の在庫を多く抱えていることから、丸太価格が値下げ傾向にある。特にヒノキ材の入荷が増加しているが、中目材以上の原木を製材する工場が少ないため、柱、土台用以外の在庫が増え始めている。

(2) 主な意見

- 丸太の流通形態として、市場ではなく製材工場への直送が増加したことに伴い、大径木等の売りづらい材が市場に溢れ出しており、価格に影響を及ぼす要因の一つになっていると考えられる。新しく大径木のマーケットを作り出すことができれば動き出すのではないかと。
- 尺上材は中目材より高いというイメージであったが、現在は逆転している。母屋取り材が一番高く、柱取り材、中目材、尺上材という順に安くなっており、林家としては納得できない状況である。大径の並材については、大径材まで挽ける機械設備を整えることで、中目材と同じ価格にはできると考えている。